

道徳教育の充実がB問題にも効果

～四万十市立中村南小学校の取り組みから～

西部管内には、道徳教育を充実させることで子どもの道徳性の向上のみならず、学力向上も同時に成し遂げた学校があります。四万十市立中村南小学校は、平成22～24年度高知県教育委員会指定道徳教育重点推進校事業、平成26年度道徳教育用教材活用推進事業の研究を行うなど、組織的に道徳教育に取り組んできました。

平成28年度当初の道徳性に関する意識調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目において、平成27年度全国学力・学習状況調査児童質問紙の全国平均(肯定的な回答をした児童の割合)を上回っていることは、これまでの実践の積み上げによる成果だと思えます。

取り組みの成果はそれだけではありません。全国学力・学習状況調査でみると、学力でも平成25年度からずっと全国平均を超え、特に国語のB問題で顕著な向上が見られ、秋田県並みの結果が出ています。道徳の時間における自分の思いや考えを表現する言語活動の充実、思考力の向上につながり、学力向上の成果要因の1つではないかと考えます。

更に、本年度からは道徳科研究指定校事業を受け、道徳の教科化に対応していくための研究が始まりました。テーマは「自己の生き方をみつめる児童の育成～道徳科の研究を通して～」です。その研究を進める中で、校長先生の方針の下、道徳教育推進教師を中心に先生方が一体となって取り組む姿があります。いくつかその取り組みをご紹介します。

まず、授業前の教材研究や準備の段階では、年間指導計画に沿って学習指導過程を確認し、道徳科の趣旨を踏まえた指導方法の工夫、教材の効果的な提示、構造的な板書の工夫などについて話し合っています。

次に、授業の中では関わり合う学習としてペアトークやグループトークなどを積極的に取り入れたり、ワークシートや道徳ノートを活用して書く活動を取り入れたりする等、言語活動の充実を図っています。授業後は、速やかに年間指導計画の評価欄に実施上の課題等を随時追記し、次年度に生かしています。

また、研究授業では、児童の立場で考えられた発問であるのかを中心に協議が行われていますが、更に今後は、児童が道徳的価値を自分との関わりで捉えたり、問題意識をもったりすることができるように、発問に多様性をもたせ、多面的・多角的に考えさせる道徳授業の展開となるよう研究を進めていく予定です。

学校のホームページには、研究授業の指導案や学校だよりの道徳コーナー「道徳のひろば」等が掲載されていますので、多くの先生方に見ていただき、ぜひ参考にさせていただきたいと思えます。

「豊かな心」の育成の中核となる道徳教育が充実すれば、児童が自己の内面的資質を高めて学びに向き合うようになり、「確かな学力」の育成にも効果があると中村南小学校は証明しています。

校長：県教育委員会小・中学校課のメールマガジン(7月号)で配信された内容です。上記は、県教委が各データ等から分析し、本校の実践を評価してくれています。学校教育では「知・徳・体」の調和がとれた人間形成の育成を目指し各校が取り組んでいるところです。しかし、そのための教育の手法や考え方は幾通りもあると思いますが、これが絶対ということはありません。ですから私達は、授業や生活面において、日々基本的なことを大切にして取り組んでいるつもりです。これからも全教職員で「凡事徹底」を合い言葉にして、「確かな学力」が定着できるよう取り組んでいきたいと思っています。